

津島に残るまちや・まちなみについて

津島市内で歴史的な建築物が集中しているのは、江戸時代に上街道(巡見街道)とも呼ばれていた「本町筋」といわれる通りです。また名鉄津島駅と津島神社を結ぶ「天王通り」も昭和初期の雰囲気を残しています。

津島は、明治24年(1891)に起こった濃尾地震により大きな被害を受けました。しかし残った部材を使用して新たに建て直したり、傾いた建物を引き起こしたり、少々の補強を加えたりして住み続けた例もあったことが、棟札などにより確認されています。

現在では濃尾地震以前の建物も、地震の後に建てられた建物も互いに溶け合い、風情のある町並みを形成しています。



■ 津島市旧市街地での建築年代別の分布

江戸 ■ (赤)・明治 ■ (オレンジ)・大正 ■ (黄)・昭和:戦前 ■ (青)

一般社団法人
津島まちや・まちなみ再生機構

会員募集のご案内

◆ 入会方法

下記までお電話もしくはメール頂き、住所、氏名、連絡先等をご連絡下さい。後日入会申込書をご送付いたします。

◆ 年会費

正会員…………… 5,000円

賛助会員………… 1口 3,000円

(何口でもお申込みいただけます)

※ 賛助会員につきましては、当機構における年一回の総会への出席義務及び議決権はありません。

※ 賛助会員につきましては、企業・団体名での加入も可能です。

お問い合わせ

一般社団法人 津島まちや・まちなみ再生機構

〒496-0805 津島市本町1丁目26番地

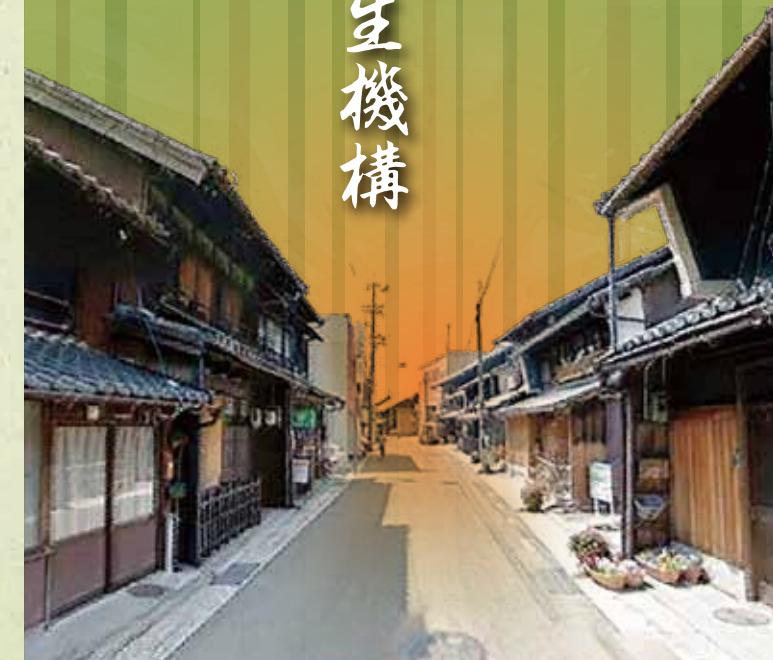
TEL.090-4257-0011

Mail: info@tsushima-machiya.net

受付日/土・日・祝日 受付時間/10:00~15:00



一般社団法人
津島まちや・まちなみ再生機構



津島の伝統的な町並みを 守り育て、町に元気を取り戻し、 次世代に受け継いでゆく

津島の「津」は、古い言葉で「湊（みなと）」を意味します。

一方で「島」は、津島神社が建つ「向島（むこうじま）」を指しているといわれています。この地名から想像できるように、津島は古くから天王川を利用した湊町として、また全国に約3000社の末社をもつ津島神社の門前町として栄えてきました。その名残は、天王通りや本町筋を中心とした旧市街地に残る、昔ながらの町家建築からうかがい知ることができます。

しかし現在は、空き家やシャッターを閉めた店が目につき、かつての賑わいを失っています。このまま放っておけば、歴史ある町家建築は取り壊され、風情のある町並みが失われてしまいます。

私たちは、旧市街地に残る町家などの建物を、建て替えなどにより壊してしまうのではなく、改修や修繕をして使い続けることにより、町家を活かし、また、歴史的、伝統的な建物が連続する特徴的な町並みを、次の世代に残すことを目的に、この再生機構を設立しました。

当機構の趣旨にご賛同いただき、当機構の活動等にご参加・ご協力いただくことにより、と一緒に津島に残る町家の保存・活用に取り組んでいただけることを願っております。

一般社団法人
津島まちや・まちなみ再生機構
代表理事 田宮 祥江



町家や空き家などの相談受付

今住んでいる町家を建て替えた方がよいのか、処分した方がよいのか。あるいは改修したい、すでに空家になっているがどうしたらよいのか、といった相談を受け、様々な職種の専門家が相談に合わせて個別にアドバイスします。

町家ニーズ情報を管理

住宅や店舗、事務所としての利用など、町家に対するニーズを掘り起こします。

そして、ニーズに合った町家について、利用希望者と所有者との橋渡しをします。

空き家を利活用

空家をお借りして、店舗や事務所、住宅として利用したい人にお貸します。



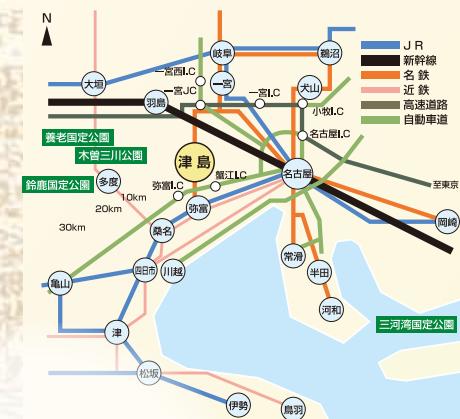
町家改修の技術を伝承

津島の町家や伝統的な建築物を調査、研究します。また津島の町家の特徴を踏まえ、その改修技術を習得した建築の専門家を育成します。

津島の町家・町並みなど、歴史・文化の普及、情報発信

津島の歴史や文化について、町家を活用したイベントの実施や、印刷物の発行、インターネットによるPRなど、各種メディアを活用して、広く一般に情報を発信し、津島の魅力を世界の人々に伝えます。

津島市の位置



津島市へのアクセス

公共交通機関

名鉄名古屋駅 → 名鉄津島線にて津島駅下車
(所要時間 準急で約22分、普通で約33分)

名鉄弥富駅 → 名鉄尾西線にて津島駅下車
(所要時間 普通で約11分)

自動車

東名阪道弥富IC → 約15分
名神高速道一宮IC → 約30分